

平成15年度 英語学力テスト報告

- I 参加校と参加生徒数
- II 得点状況
 - 1. 総合点の分布状況
 - 2. 学校別平均点分布状況
- III 正答率グラフ
- IV 所見

茨城県高等学校教育研究会
英語部作問委員会

I 参加校及び参加生徒数

テストA 参加校数 59校 参加生徒数 12,693名

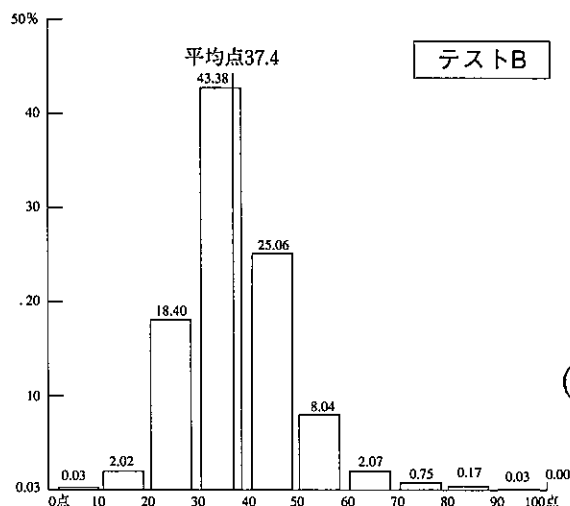
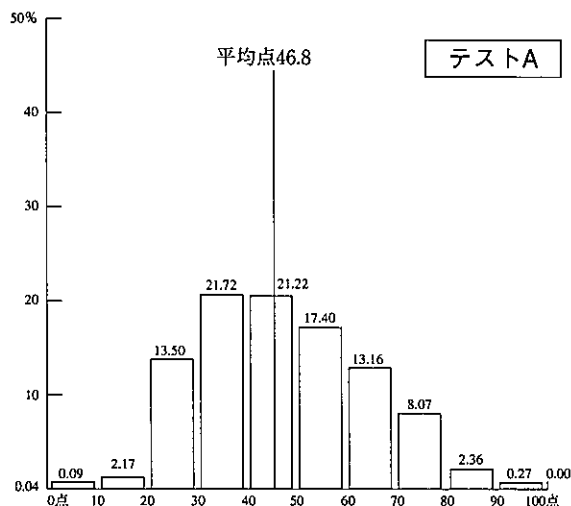
高萩、松丘、高萩工、多賀、科学技術学園日立校、日立商、太田一、佐竹、大子一、小瀬、水戸商、水戸南、常磐大常磐、大成女子、水戸女子、水戸養護、笠間、大宮工、常北、東海、茨城東、那珂、銚田一、麻生、潮来、鹿島、神栖、波崎、波崎柳川、鹿島灘、土浦湖北、霞ヶ浦、石岡一、石岡二、石岡商、小川、八郷、竜ヶ崎二、愛国学園竜ヶ崎、江戸崎、江戸崎西、取手一、取手松陽、藤代、藤代紫水、牛久、筑波、つくば工科、真壁、鬼怒商、石下、八千代、古河三、三和、境、岩井、岩井西、守谷、伊奈

テストB 参加校数 22校 参加生徒数 3,472名

科学技術学園日立校、日立商、佐竹、大子一、水戸商、水戸養護、常北、茨城東、麻生、潮来、鹿島、神栖、波崎、石岡二、竜ヶ崎二、取手一、取手松陽、藤代、藤代紫水、岩瀬、古河一、岩井

II 得点状況

1. 総合点の分布状況



得点	0	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49
人数	5	12	276	1,713	2,757	2,693
得点	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100
人数	2,209	1,670	1,024	300	34	0

受験者数 12,693 平均点46.8

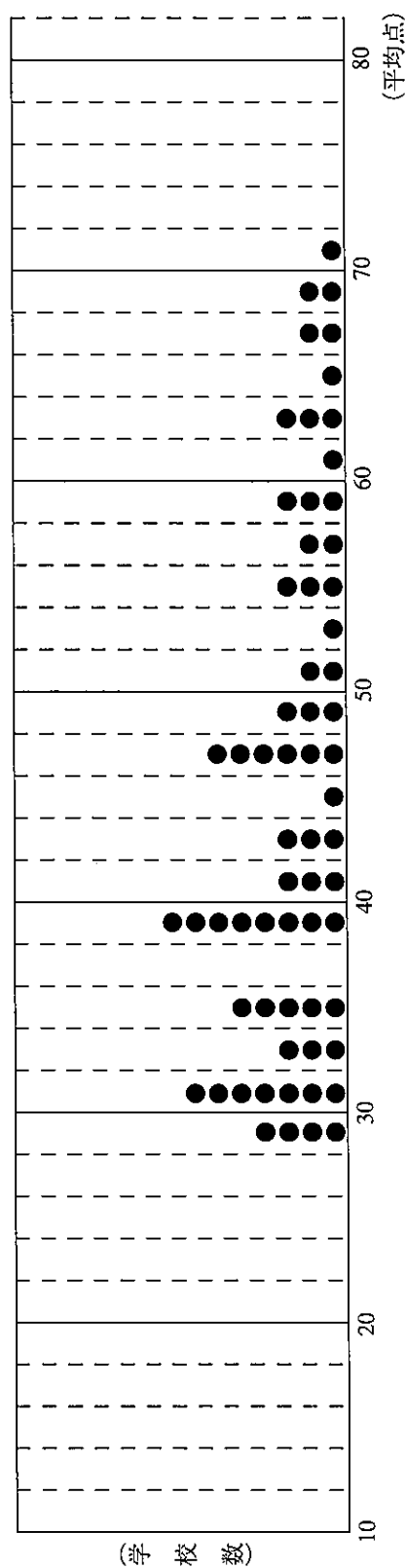
得点	0	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49
人数	1	1	70	639	1,506	871
得点	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100
人数	279	72	26	6	1	0

受験者数 3,472 平均点37.4

2. 学校別平均点分布状況

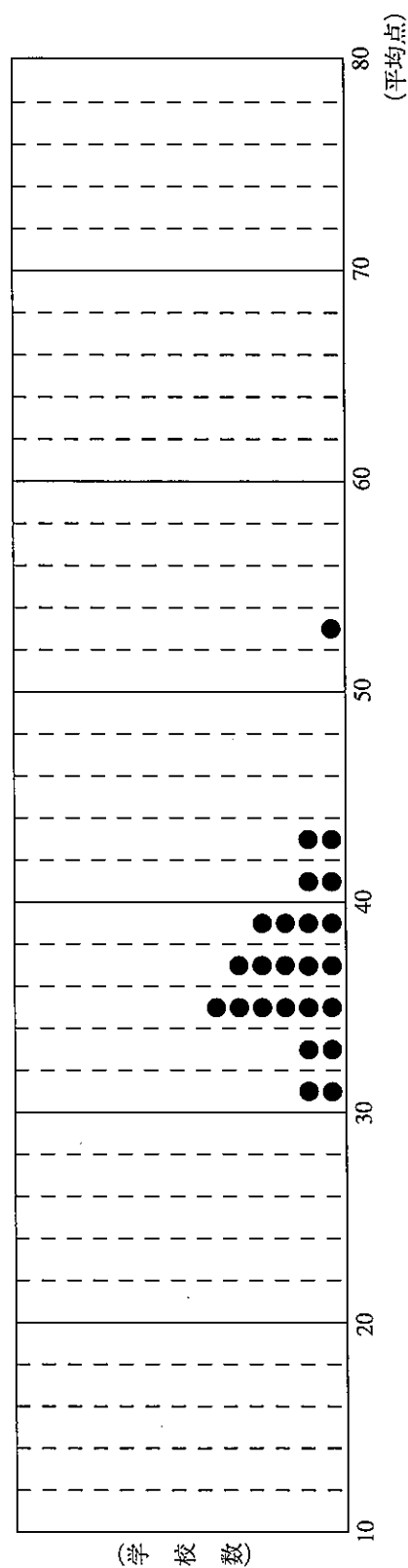
テストA

(同一校でコース別に分けた学校あり)



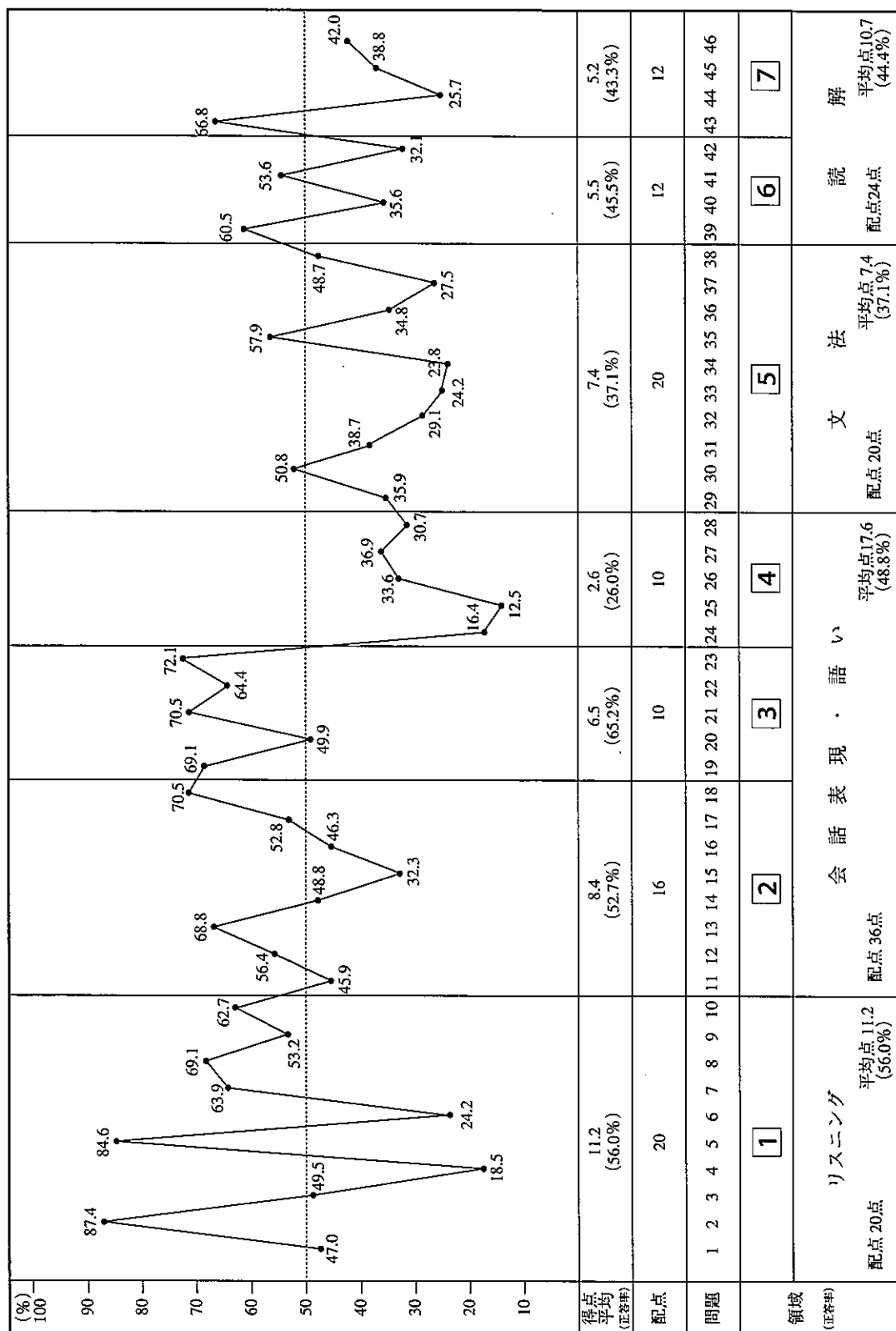
テストB

(同一校でコース別に分けた学校あり)

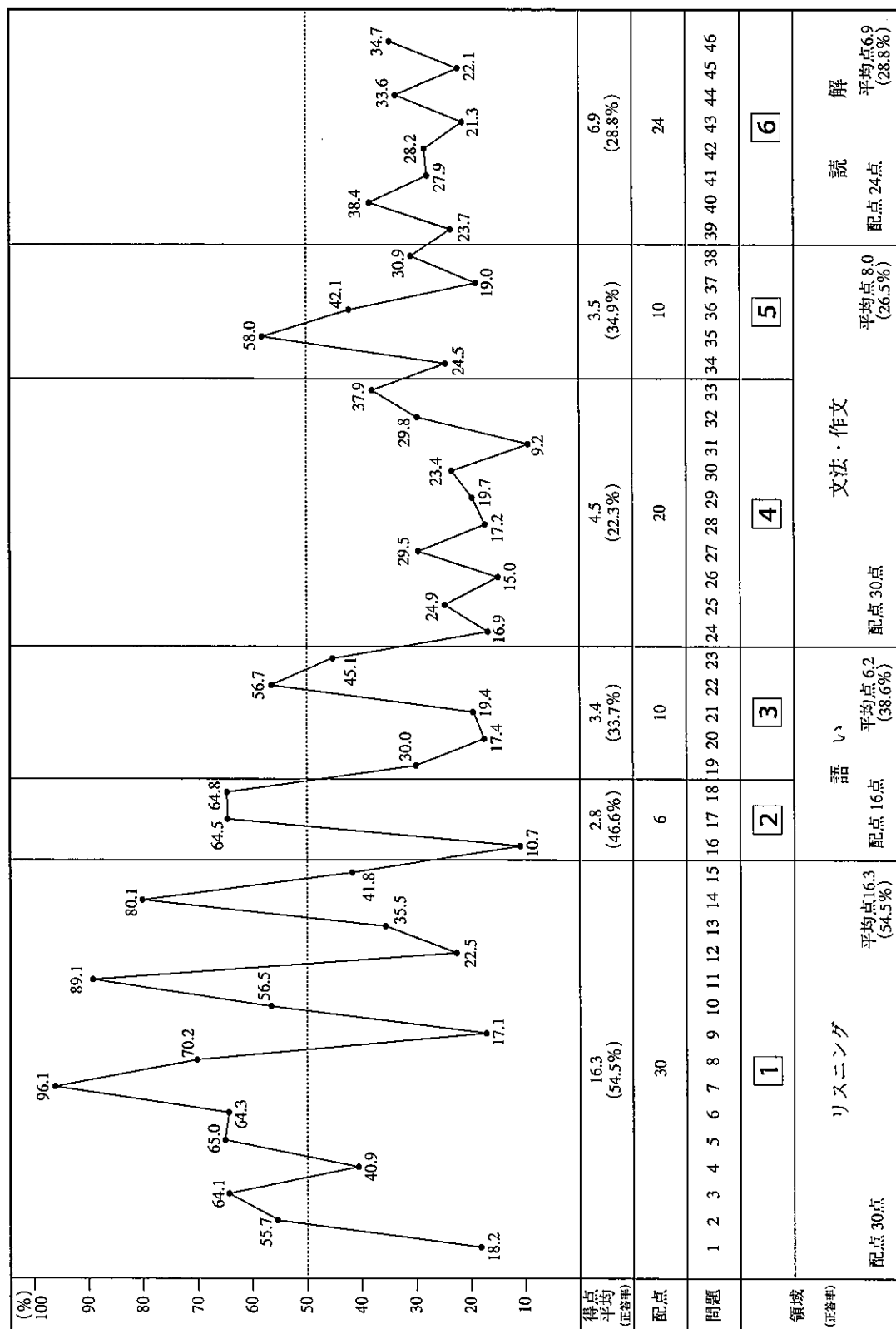


Ⅲ 正答率グラフ

テストA



テストB



Ⅳ 所 見

テストA

〈リスニング〉

- 1 中学校の新教育課程を考慮し、従来実施されていた基本単語の発音の違いや文強勢の位置を問う問題の出題をとりやめ、聞き取りの問題を多く出題した。情報を正確に把握する必要がある問題において正答率が低かった。耳に入ってくる音を情報として吟味し、全体の把握をできるように指導することを心がけたい。

〈会話表現〉

- 2 会話表現は全体的に良くできていた。特に(18)のような実用的な場面での会話表現が定着しており、好ましいことである。

〈語い〉

- 3 よく使われる熟語、副詞句は英文の中で定着しているようである。高校の学習においても、同じように英文の中で自然に定着させたい。

- 4 単語の定着率が著しく低下しているようである。単語は語学学習の要であるので、しっかりと学習させたい。

〈文法〉

- 5 基本文法事項の定着が低いので早めに復習させたい。

〈読解〉

- 6 7 今年から読解問題の英文の量を1/2にし、問題数を増やした。話の内容を適切にとらえる力はあるようである。

〔全体的に〕

出題は例年通り、語い、文法ともに中学校で履修した範囲からである。基本的なスキルは身に付いているので、語い力を高めることによって、さらに英語の力を伸ばすことができるだろう。

テストB

〈リスニング〉

1

昨年に引きつづき、would you mind～を出題したが、質問文の意図をつかめていないようである。

放送文の中に正解があるものと、聞き取った内容をもとに正解を選ぶものを出題した。前者の正答率が高いが、後者に関しては正答率の低いものもみられた。

〈語い〉

2

(16) のような英単語を個別に覚えるだけでなく、類語、対語などに関連づけて覚える学習を促進したい。

3

この問題は文脈からイディオムの意味を類推するものであるが、文意はほぼ読みとれていると思われる。さらに語い力をつけたい。熟語と単語に関連づけて覚える習慣もつけさせたい。

〈文法〉

4

時制や個々の単語の正確な使い方に関してさらに学習が必要と思われる。関係詞や代名詞などの語法について整理する機会があるとよい。

〈作文〉

5

よく知られている表現の発展・応用的な語法にふれる機会をふやしたい。

〈読解〉

6

限られた時間の中でキーワードとなる単語をとらえながら、論旨を正確にくみ取ることができるかがポイント。

〔全体的に〕

試験後のフィードバックを意識して作成したので解説等を是非活用して頂きたい。

〔後 記〕

平成15年度第37回英語学力テストA・Bに多くの学校より参加協力をいただき誠にありがとうございました。すでに受験校には生徒用の個人成績表をはじめとする各種データが届いていると思います。この報告書のデータや作問委員会の所見等も併せて参照していただき、今後の指導の一助にいただければ幸いです。

新学習指導要領の導入と時代の求める英語力を考慮し、今年度テストAは従来の形式に新しい変化を加えました。発音・アクセント問題を削除し、リスニングを重視して問題数を倍にしました。また、語句整序問題を削除し、読解問題を従来の長さの約半分にして、2題設けました。テストAはこれまで県内の全公立中学校が共通して使用している1つの教科書をベースにしましたが、新学習指導要領の導入に伴い2種類になりました。両者を比較検討してみると使用している単語、熟語に差がみられます。作成上できるだけ共通しているものを使うように努力しました。受験校の先生方からいただいたアンケートの結果、今回の形式改訂に対しては肯定的、好意的な意見がほとんどでした。しばらくはこの形式を継続したいと考えておりますが、さらに先生方から多くのご意見等を頂戴したいと思います。

テストBは現在の形式になって4年が経ちました。受験校の先生方からは概ね良い評価をいただけてきました。この学力テストの利用、活用目的は学校によって異なります。テストBはその活用方法の自由度を高め、参加校が増えることも期待し、今年度委員会では形式、内容を改訂した新しいテストを16年度実施に向けて検討してまいります。

現在、英語力を計るテストは、英検、TOEICなどを含め多種多様なものがあります。そのような中でこの英語学力テストの果たす役割を改めて考えていく必要があるかと思えます。

ペーパーテストによる学力測定には限界があるでしょうが、委員会としてはまず生徒たちの英語力の「実態」が把握でき、ひいては彼らの力を向上させるような我々教師の指導法の工夫、改善のヒントになるようなテストづくりを目指していきたいと考えております。

今後より多くの先生方のご理解とご協力、ご指導をお願いいたします。

14年度作問委員	渡邊 敦子 (高 萩)	軍地 清保 (水戸三)
	神賀 俊光 (那 珂)	根本 雄一 (土浦一)
	豊島 卓 (藤 代)	岡田 充子 (つくば工科)
	池田 恭彦 (下館工)	飯塚 秀樹 (古河一)
	若槻 晶 (古河二)	直井多佳子 (伊 奈)

過去5年間のテスト参加状況

		H. 15年度	H. 14年度	H. 13年度	H. 12年度	H. 11年度
A	参 加 校	59校	62校	67校	67校	66校
	受験者数	12,693人	13,895人	15,392人	14,985人	16,206人
B	参 加 校	22校	24校	25校	26校	26校
	受験者数	3,472人	4,311人	4,756人	4,897人	5,269人
受 験 校 延 べ 数		81校	86校	92校	93校	92校
受 験 者 総 数		16,165人	18,206人	20,148人	19,882人	21,475人